

芝高山岳部が、冬の焼峰山で遭難事故を起こして平成 19 年 12 月 30 日で丁度半世紀となります。当時としては、高校生の冬山登山は非常に珍しいことでした。しかも、極地法（ポーラーシステム）という登山方法で、赤津山（1,408m）の登頂を計画したものでした。近代登山の幕開けの時代で、各大学でも盛んにこの登山方法を研究して取り入れた時代でした。

## 遭難事故の発生

昭和 32 年 12 月 30 日夜



焼峰山頂 C1 から北股岳を望む

昭和 32 年 12 月 28 日、比較的穏やかな日でした。

サポート隊が焼峰山頂に C1 を建設して、アタック隊を待つ。

アタック隊・・・渋谷亘・熊谷克二

小林勇二郎・本田修蔵（OB）

サポート隊・・・国枝隆一郎・八幡 紀・六井 潔

中西昭二(OB)



昭和 32 年 12 月 31 日

赤谷村営火葬場の看板があった

遭難事故を契機に、当時の現役と諸先輩がまとまり、翌年、昭和 33 年 8 月 10 日には、地元滝谷集落の人々をはじめ関係者各位のご協力によりまして、故本田修蔵さんを偲び「修蔵峰」に追悼碑を建立したものです。滝谷集落のご好意によりまして、追悼碑の場所・位置などを決めさせて頂きました。そして、その場所を「修蔵峰」と命名したものです。（標高は約 985m です）五十年前の写真です！・・・よくご覧ください。

## 追悼碑の建立

昭和33年8月10日



碑に向かって右端・杉浦（ゾッチャマ）先生



昭和33年8月10日 本田家のご親族の人々

## 追悼碑の修復

昭和58年8月



碑を建立して二十五年もの歳月が経過した為に、昭和58年8月には、追悼碑が東南側（氏ノ澤側）に傾いたり、若干移動した為に修復工事をする事にいたしました。修蔵峰の厳冬期は、想像を超える北西の季節風が強くて、氏ノ澤側に強大な雪庇が発達して碑を動かしたのです。

当時の参加者は、比較的若くて40代の人達が中心になり修復工事を行ったものです。修復資材の荷上げもあまり問題なく立

派に完成いたしました。一番苦勞したのは、碑の移動作業でした。



## 追悼碑の全面改修工事

800kg の荷揚げ



基本的には、建立から半世紀と長い時間の経過と、激しい風雪にさらされてセメントにひびが入り、碑そのものの傷みが激しい為に、今回は全面的な改修を考えました。われわれも還暦を過ぎた年齢になり、体力的にも今年が限界ではないかとの考え方が支配的でありました。今年二月頃から話があり企画・計画を立てたものであります。今回の事業で一番の難問は、何んと言っても 800 キログラムの碑改修に伴う建設資材の荷上げでした。



太田さん（昭和 33 年卒）

老骨にムチをうちながら頑張った

浦澤さん（昭和 37 年卒）

約 30 k g の重い荷物で頑張る



平成 19 年 7 月 1 日作業が終わり記念撮影



課題であった荷上げにつきましては、OBの中に下越山岳会前会長の高橋正英さん（昭和 28 年卒）が在籍されており、また、豊栄山岳会の会長を経験された丸山高司さん（昭和 30 年卒）がおられた為に、両山岳会のご協力によりまして、難問の荷上げは予定よりも大幅に早く荷上げ作業が完了いたしました。ここに厚く御礼を申し上げます。

現場監督の磯岡道雄さん（昭和 26 年卒業）



当初の追悼碑改修計画では、平成19年秋頃を予定していました。しかし、皆様方のご協力によりまして本年7月8日に完成をいたしました。現地にて大勢の関係者で竣工式を行いました。そして、当日は本田家からは、実弟の本田邦雄氏にも現地まで登って頂き當時を偲びました。

中山成二氏（昭和38年卒・長善寺住職）からも現地まで登って頂きました。そして、確実に半世紀の時間が過ぎ去った当日、静かなる天空の頂きに稜線へと湧き上がるガスのなか・・・最高の雰囲気です・・・中山住職の読経がながれ、参加者一同めいめいの思いを胸に、線香をあげて拝礼を行い無事に竣工式が終わりました。



線香をあげて礼拝する本田氏



工事完了後の記念撮影

昨年7月8日、兄、修蔵の遭難追悼碑の再建竣工式に出席させて頂きましたが、突然の再建話に驚きと感激で胸中が熱くなりました。没後五十年目にして再建された碑は、表面が上向きのモダンな形に変わり、五十年目に相応しい立派なものでした。何年振りかで見える兄の碑、思わず兄の追憶に胸が熱くなりました。同時にこの再建作業に苦労をいとわずに携わってくださった方々にたいして「本当に有難うございました」と感謝の言葉しかありません。



本田さんと丸山高司さん

素晴らしい先輩、後輩に恵まれ、家族以上に深い友情の絆にきっと感激しているに違いありません。兄は果報者です。追悼碑再建の想いを成し遂げられました「かいらぎ山岳会」及び「豊栄山岳会」をはじめ、ご協力くださった多くの方々に心から敬意を表します。「天空の追悼碑」は、山を愛する同士の変わらぬ友情の証としていつまでも皆様の心に刻まれることと思います。

皆様のご苦労に対して格別な報いも出来ませんでした。私達家族一同は、皆さん方の善意に衷心より感謝いたしております。終わりに際し、皆様の末永いご健康とご多幸をご祈念申し上げます。